

防衛相資料作成を釈明

「文民統制反せず」

安保法案 審議再開

中谷元・防衛相は19日の参院平和安全法制特別委員会で、安全保障関連法案の成立を前提に防衛省制服組の統合幕僚監部が自衛隊活動に関する内部資料を作成した問題について「法成立時期を予断したのではない」と釈明した。国会で追及されるまでの約3カ月間、資料の内容を把握していなかったと認めた。野党は文民統制を逸脱し、国会を軽視していると批判を強めた。特別委は資料をめぐって紛糾し途中で散会した11日以来、審議を再開した。

(5面に関連記事)

中谷氏は、法案の閣議決定翌日の5月15日、内容を隊員に周知するよう指示し、統幕が内部部局と調整して下旬に

資料を作ったと説明。同26日に陸海空3自衛隊指揮官らが参加したテレビ会議で使った。

その上で「法案の成立後に具体化するべき課題を整理した。任務として実施する防衛省・自衛隊が内容を分析、

- 内部資料は安全保障関連法案の成立時期を予断したものではない。資料に8月成立と記したのは仮の日程。文民統制に反しない
- 11日の委員会で追及されるまで約3カ月間、資料の内容を把握していなかった
- 成立後に具体化するべき課題を整理。防衛省・自衛隊が法案内容を分析、研究するのは当然
- 秘密に該当するものは含まれていないが、外部流出は極めて遺憾

研究するのは当然だ」と訴えた。同時に「私の指示の範囲

内のものだ。シビリアンコントロール上の問題があるとは考えていない」と明言した。

資料に安保法案の成立時期を「8月」と記していたことに関して、政権が8月の成立を目指しているとした新聞報道を示し「作成時の報道を踏まえ、仮の日程を記述した。最も早い場合に対応しなければ」と(統幕が)考えた」と述べた。

一方で「資料を確認したのは(8月11日の)委員会で提示された時だ」と打ち明けた。共産党への資料流出については「秘密に該当するものは含まれていないが、外部流出したことは極めて遺憾だ」との認識を示した。

民主党の大野元裕氏は、作成時に通常国会の会期延長は決まっておらず、6月24日が会期末だったと指摘。「統幕が国会を無視して勝手に日程をつくり、防衛相は確認して

いない。これが文民統制なのか」と非難した。

資料の存在を明らかにした共産党の小池晃氏は、中谷氏が11日の特別委で「国会の審議中に法案の内容を先取りすることは控えるべきだ」と答

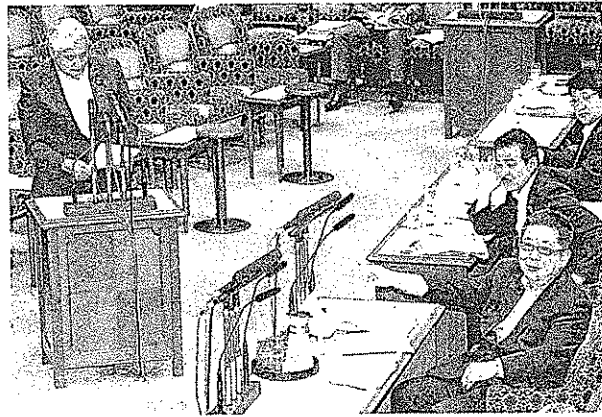
弁したこと、中谷氏の指示に基づき資料を作成したとの説明に矛盾があると追及。中谷氏は「前回は中身を確認していないので一般論で発言した」と弁明した。

問題続出 野党に勢い

安保法案 審議再開

安全保障関連法案を審議する参院の特別委員会が19日、約1週間ぶりに再開した。政権側は法成立を前提とした防衛省の内部資料問題で紛糾した審議の正常化を図った形だが、この日、自民党議員による金銭トラブル疑惑が新たに浮上した。安保法案を「最優先」に掲げる政権にとって問題が相次ぐ終盤国会は波乱含み。攻勢を強める野党は法案に反対する世論の声を政権不信へとつなげる狙いがある。会期末まで1カ月余り。与野党攻防は激しさを増す一方だ。

(一面に本記)



参院平和安全法制特別委で中谷防衛相左端の答弁に納得がいかない表情を見せる共産党の小池晃氏(右手前) 19日午後

終盤攻防激しさを増す

▽あらゆる手段

「統幕統合幕僚監部」は国会を無視し、国会延長まで予期したような日程表をつくった。政治がコントロールできない。民主党の大野元裕氏は19日の特別委で統幕による内部資料作成を指摘。中谷

元防衛相は釈明に追われた。野党は「今後も安倍政権の危険性をあぶり出したい」「(民主党中央)と意気込む。参院審議で問題視された「法的安定性は関係ない」との磯崎陽輔首相補佐官の発言や防衛相の核兵器運搬搬送弁も追及材料

となる。民主党幹部は「戦後70年の安倍談話、新国立競技場の問題もある。あらゆる手段を用い、法案成立阻止を図りたい」と強調する。「政権のイメーシタワンが法案審議に有利に働く」「(ペレラン)との計算

がある。

▽火の粉

与党方針は「野党の言い分を可能な限りのむ。その代わり、審議時間をどんどん積み上げる」「(自民党幹部)。9月上旬には採決のめどとなる100時間を超え、環境が整うと見込む。衆院で再可決、成立させる「60日ルール」の適用が可能となるのが9月14日。与党はその日までに参院本会議で採決を図る考え。自

民党参院幹部は「衆院に60日ルールを使われれば「参院は出来ない」と国民から言われかねない」と本音を語る。今月20日に対案の一部を提出する維新の党との修正協議に期待する声もあるが、合意は厳しい状況だ。自民党幹部は「修正協議にこだわり続ける間に内部資料作成のように想定外の事態が起こる」と不安感が先に立つ。

19日発売の週刊誌が自民党の武藤貴也衆院議員が、知人に未公開株の購入を持ち掛けトラブルになったと報じた。すくべに武藤氏が離党届を提出したのは、政権が「法案への影響を最小限にしよう」と火の粉を振り払った(政府筋)との見方がもつぱらだ。野党は「攻撃材料がまた一つ増えた」と24日の参院予算委員会集中審議などで安倍晋三首相を批判する構えだ。

▽与党分断

民主党の岡田克也代表が視野に入れるのは与党の分断だ。18日のテレビ番組で「公明党が強行採決に賛同できないような事態をつくり出した」と語った。その実現に力と頼むのが世論だ。

民主党の枝野幸男幹事長が都道府県連幹部に23日に国会周辺で行われる法案反対の大規模デモへの参加を要請したのも、世論喚起の一環。別の党幹部は「法案への拒絶反応が今以上に激しくなれば『平和の党』の公明党は簡単には賛成と言えなくなるはずだ」と力説する。

民主、維新、共産、社民、生活の5野党の党首は19日、盛岡市で共同記者会見に臨んだ。安保法案での共闘を演出したもの、足並みがそろわない面もある。与党との修正

野党5党首が 共闘アピール

安保法案で連携強化

民主、維新、共産、社民、生活の5野党の党首は19日、盛岡市で共同記者会見し、参院で審議中の安全保障関連法案への対応で連携強化を目指す方針を示し、野党共闘をアピールした。20日告示の右派県知事選で3選を目指す無所属現職の連増拓也氏を支援することも重ねて表明した。関係者によると、地元の岩手で強い影響力を持ち、連増氏の後ろ盾である生活の党の小沢一郎共同代表が共同会見を呼び掛け、各党が応じた。来年夏の参院選での協力促進をにらんだ思惑もあるとみられる。